

# 令和5年度水道事業会計当初予算(案)について

## 補足資料

八戸圏域水道企業団



3. 予算の概要「前年度決算見込み比較」 増減の主な理由について

(金額：消費税込み)

収益的収支：水道水を作り届けるための収支

1 上水道事業収益

1 営業収益

1. 給水収益は、有収水量の減少により4年度決算見込みより約5,800万円減収となる見込みです。
2. 受託工事収益は、4年度に洋野町との共同施設となる白山浄水場中央監視運転支援機能設備更新工事が終了したため、工事負担金が減少する見込みです。
3. その他営業収益は、道路改良工事に伴う水道管移設工事の減少に伴い負担金が減少する見込みです。

2 営業外収益

2. 下水道業務負担金は、電算処理委託料が減となる見込みです。
6. 雑収益は、中古メータ売却代金などが減少する見込みです。

2 上水道事業費

1 営業費用

1. 原水及び浄水費では、電力料金の値上げや物価高騰により動力費や薬品費が増加する見込みです。
2. 配水及び給水費では、令和4年度に行った南郷1号配水塔耐震改修工事、水道施設台帳システムデータ整備業務委託料が減となりました。
6. 業務費は、労務単価の上昇により委託料が増となる見込みです。
7. 総係費は、労務単価の上昇による委託料の増、R4年度広報紙印刷の落札による減額分などが増となる見込みです。
11. 資産減耗費は、馬淵川系導水管更新工事完成により、現在使用している導水管が廃止となるため、固定資産の除却費用が増額計上となりました。

2 営業外費用

1. 支払利息は、企業債残高の減少により4年度決算見込みと比べ減額となる見込みです。
2. 消費税及び地方消費税は、収益の減額により仮受消費税が減となり、支出の増額により仮払消費税が増となるため、納付予定額が減額となる見込みです。

資本的収支：施設を建設・更新するための収支

(金額：消費税込み)

1 上水道資本的収入

- 1 企業債は、起債対象事業費の増により借入額が4年度より増額となる見込みです。
- 2 工事負担金及び寄附金は、道路改良工事に伴う水道管布設工事の増により負担金が増額となる見込みです。
- 3 国庫補助金は、交付金対象事業費の減により、減額となる見込みです。
- 4 水道加入金は、4年度決算見込み値は、実績が少なく補正予算で減額しましたが、当初予算は、財政計画と同じ額を見込んでいます。

2 上水道資本的支出

1 建設改良費

2. 施設費は、管工事や継続事業の進捗により4年度決算見込みと比べ、工事費が増額となる見込みです。

増減の主なもの

施設整備費 △9億7,196万2千円

新目時配水池築造工事 (R4完成予定) △4億739万6千円

白山浄水場配水本管及び流量計室更新工事 (R4完成) △2億4,749万4千円

三島浄水場電気設備更新工事 △1億1,062万4千円など

管工事 +16億6,096万9千円

(継続) 馬淵川系導水管更新事業費が前年度と比べて約2億800万円の増額

(継続) 蟹沢配水幹線布設替工事が前年度と比べて約1億1,900万円の増額

(配水管工事) おいらせ下田橋配水管布設替(架替)工事5億2,800万円計上

三島踏切横断管路更生工事 2億234万5千円計上など

## 6. 財政計画比較

## ⑤指標比較【KPI】

## (1) 有効率

指標の解説	水道施設を通して給水された水量が、どの程度有効に使用されているかを示すもので、経営の効率性を表す指標					
算出式	$(\text{年間有効水量} \div \text{年間給水量}) \times 100$					
R5年度値	目標値	93.2%	予算値	93.2%	増減	0.0%
評価・分析	年々上昇しており、令和5年度は目標値と同じ値を見込んでいる。					

## (2) 有収率

指標の解説	年間給水量に対する年間有取水量の割合を示すもので、水道施設を通して給水された水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標					
算出式	$(\text{年間有収水量} \div \text{年間給水量}) \times 100$					
R5年度値	目標値	90.8%	予算値	91.0%	増減	0.2%
評価・分析	老朽管の更新などにより、年々上昇している。令和5年度も目標値を上回る見込みである。					

## (3) 管路の更新率

指標の解説	管路総延長に対する当該年度に更新した管路延長の割合を示すもので、管路の更新ペースが把握できる。数値が2%の場合すべての管路を更新するのに50年かかることになる。					
算出式	$(\text{当該年度に更新した管路延長} \div \text{管路総延長}) \times 100$					
R5年度値	目標値	0.42%	予算値	0.44%	増減	0.02%
評価・分析	令和5年度は、馬淵川系導水管更新工事や蟹沢配水幹線布設替工事が完了見込みのため、令和4年度見込み値より上昇するが、多額の事業費を要する大口徑の管を更新しているため、更新距離が短くなり更新率は低い値で推移している。					

## (4) 浄水施設の耐震化率

指標の解説	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施された浄水施設能力} \div \text{全浄水施設能力}) \times 100$					
R5年度値	目標値	42.1%	予算値	42.1%	増減	0.0%
評価・分析	実施事業なし。					

## (5) ポンプ所の耐震化率

指標の解説	耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施されたポンプ所能力} \div \text{耐震化対象ポンプ所能力}) \times 100$					
R5年度値	目標値	94.2%	予算値	94.2%	増減	0.0%
評価・分析	実施事業なし。					

## (6) 配水池の耐震化率

指標の解説	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施された配水池有効容量} \div \text{配水池等有効容量}) \times 100$					
R5年度値	目標値	49.0%	予算値	49.8%	増減	0.8%
評価・分析	南郷1号配水塔耐震改修工事や新目時配水池（仮称）の完成予定により、指標値は高くなる見込みである。					

## (7) 管路の耐震管率

指標の解説	全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震管延長} \div \text{管路延長}) \times 100$					
R5年度値	目標値	46.0%	予算値	45.7%	増減	-0.3%
評価・分析	耐震管率は、同規模平均と比較して高い値となっており、年々上昇しているが、令和5年度は、目標値を下回る見込みである。					

## (8) 基幹管路の耐震管率

指標の解説	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{基幹管路のうち耐震管延長} \div \text{基幹管路延長}) \times 100$					
R5年度値	目標値	72.5%	予算値	73.0%	増減	0.5%
評価・分析	基幹管路の耐震管率は、同規模平均と比較して高い値となっている。 新目時配水池（仮称）への送水管の完成などにより、令和4年度より0.6ポイント上昇する見込みで、計画値より0.5ポイント上回る見込みである。					

## (9) 重要給水施設配水管路の耐震管率

指標の解説	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{重要給水施設配水管路のうち耐震管延長} \div \text{重要給水施設配水管路延長}) \times 100$					
R5年度値	目標値	55.9%	予算値	55.9%	増減	0.0%
評価・分析	三戸中央病院、向小学校への配水管路（345m）の更新を予定しており、目標値と同じ値となる見込みである。					

## 6. 財政計画比較

## ⑤指標比較【経営指標】

## (1) 職員一人当たり有収水量

指標の解説	水道サービスの生産性・効率性を評価する指標で、有収水量の規模に照らして、人員数が適切であることを示す指標。					
算出式	年間総有収水量 ÷ 損益勘定職員数					
R5年度値	予測値	185,662m <sup>3</sup> /人	予算値	181,293m <sup>3</sup> /人	増減	-4,369m <sup>3</sup> /人
評価・分析	同規模平均と比較して、低い値となっている。 年間総有収水量が計画より減少する見込みのため、指標値が低くなる見込みである。					

## (2) 企業債償還元金対減価償却費比率

指標の解説	投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。一般的にこの指標が100%を超えると、再投資を行うための資金を企業債等の外部資金に頼らざるを得なくなる。					
算出式	建設改良のための企業債償還元金 ÷ (減価償却費 - 長期前受金戻入) × 100					
R5年度値	予測値	36.98%	予算値	37.34%	増減	0.36%
評価・分析	同規模平均と比較して低い値となっており、年々減少傾向にある。					

## (3) 有形固定資産減価償却率

指標の解説	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表した指標で、資産の老朽化度合を示す指標。					
算出式	有形固定資産減価償却累計額 ÷ 償却対象資産の帳簿原価 × 100					
R5年度値	予測値	51.91%	予算値	52.12%	増減	0.21%
評価・分析	予測値より0.2ポイント高くなると見込まれ、老朽化は進んでいる状況にある。 施設の老朽度合は進行するが、資産の長寿命化を図りながら最適な時期での更新を計画し、最大限有効活用する資産管理が必要である。					

(4) 有収水量1m<sup>3</sup>当たり資産合計

指標の解説	どの程度効率よく施設を使用して給水を行っているかを表す指標。資産の規模は団体により異なるが、遊休資産や未稼働資産が多い場合は、数値が高くなる傾向にある。					
算出式	資産合計 ÷ 年間総有収水量					
R5年度値	予測値	3,427円/m <sup>3</sup>	予算値	3,459円/m <sup>3</sup>	増減	32円/m <sup>3</sup>
評価・分析	有収水量の減少により、指標値が高くなっており、効率性は悪くなってきている状況にある。同規模平均と比較しても高い値となっている。					

## (5) 施設利用率

指標の解説	一日給水能力に対する一日平均給水量の割合を示すもので、施設の利用状況（効率性）や適正規模を判断する指標。一般的に高い数値であることが望ましい。					
算出式	一日平均給水量 ÷ 一日給水能力 × 100					
R5年度値	予測値	56.13%	予算値	55.49%	増減	-0.64%
評価・分析	配水量の減少により、指標値は年々減少し、効率性は悪くなっている。					

## (6) 経常収支比率

指標の解説	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかという、収益性を示す。この指標は単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要。					
算出式	経常収益 ÷ 経常費用 × 100					
R5年度値	予測値	107.59%	予算値	104.37%	増減	-3.22%
評価・分析	100%以上であるが、予測値より低くなる見込みであるため、更なる効率化などによる経費削減が必要である。					

## (7) 料金回収率

指標の解説	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかという、料金水準を評価する指標。この指標が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。					
算出式	供給単価 ÷ 給水原価 × 100					
R5年度値	予測値	104.04%	予算値	98.83%	増減	-5.21%
評価・分析	修繕費や動力費等の増加により、給水原価が上がり、指標値が100%を下回った。水道料金収入で費用が賄えていない状況であるため、更なる経費削減が必要である。					

## (8) 流動比率

指標の解説	短期的な債務に対する支払い能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要。					
算出式	流動資産 ÷ 流動負債 × 100					
R5年度値	予測値	295.93%	予算値	273.77%	増減	-22.16%
評価・分析	指標値は100%以上で、短期的な債務に対する支払い能力はあるといえるが、年々減少している状況である。					

## (9) 自己資本構成比率

指標の解説	資金の調達源泉である総資本（負債・資本合計）に対する、自己資本（資本金+剰余金）の割合で、財務の長期的な安全性を示す指標。					
算出式	(資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益) ÷ 負債・資本合計 × 100					
R5年度値	予測値	84.84%	予算値	84.64%	増減	-0.20%
評価・分析	計画より利益が減少する見込みのため、指標値も計画より減少しているが、ほぼ横ばいで推移している。					